

調布をゆったり楽しくハッピーに!

わくわく

2019年
春号

14号



特集1

手話を学ぼう!

特集2

福祉作業所で ラグビーグッズ製作中!!

祝
ラグビーW杯2019
日本大会

発行：調布市福祉作業所等連絡会
企画・編集：調布コミュニティビジネス推進委員会「調布アットホーム」
デザイン：(有)パンドコグラフィックス
撮影：表紙・原子尚之

life style

このページでは、障がい者の生活の
1コマをご紹介します。



わくわく14号 2019年4月 発行 調布市福祉作業所等連絡会 調布市有田2-2-6-8-101 TEL.042-481-3201 fuku-renraku@bz-f.com.nc.jp 企画・編集 調布コミュニティビジネス推進委員会「調布アットホーム」

絵は自分の世界がどんどん
ふくらんでいくのが楽しい

水上壮志さん(28)は、染地の多摩川住宅の中にある美術教室「調布美術研究所」に通いはじめて21年になります。小学校低学年の時に絵画をはじめ、毎週土曜日に通い出してから、なんと一度も休んだことがないといいます。

「調布美術研究所」は調布よさこいの山車の装飾なども手掛けていたところで、教室の他、ギャラリーでの展示や大人から子どもまで楽しめるワークショップを開催しています。代表の師井栄治さんは、「うちには健常の子どもから美大生まで生徒がいますが、水上君は子どもの頃から絵がうまくて、自分でやろうとする力、学ぼうとする力が誰よりすごい」といいます。

20歳の時に先生にすすめられ、手書きからパソコンでデザインソフト「フォトショップ」を使って絵を描くように。使い方も自分で勉強してあっという間に覚えてしまいました。「フォトショップで描くほうが影がつけやすく、僕の描きたい立体的な絵が描けるようになって、表現がしやすくなった」そうです。

描くのは「人がたくさん集う楽しい風景」。電車や乗り物も好きなので、「今後は電車や乗り物のたくさん登場する楽しい絵も描きたい」と抱負を語ってくれました。

この2月〜3月には、「調布美術研究所」のギャラリーで市内の福祉作業所の利用者などのアート展が開催され、水上さんの絵も3点展示されました。水上さんは絵の他に、ぬいぐるみの衣装を作るなど手芸も楽しんでます。

※次号「わくわく15号」は、2019年9月に発行する予定です。